

# 有限会社 サンダーファーム牛田



## 経営のプロフィール

### 経営概要

- ・ 水稲 (56ha うち稲穂様転作 18ha)
- ・ 麦 (51ha)
- ・ 大豆 (51ha)
- ・ (夏・秋) そば (8ha×2回)
- ・ 露地ねぎ (40a)

### 主な施設・機械の保有

- ・ 乾燥調製施設4台 (乾燥機80石)
- ・ トラクター10台 (100PS2台他)
- ・ 田植機2台 (8条)
- ・ コンバイン2台 (6条)
- ・ 汎用コンバイン1台
- ・ パイプハウス (70a)
- ・ ドリルシーダー
- ・ 乗用管理機

### 構成員等

構成員3名, 常時雇用2名, パート 年間延べ300名

### 法人設立年月日

平成16年4月1日

### 認定農業者認定年月日

平成16年6月30日 (その後2回更新)

### 資本金

300万円

### 販売額

7,000万円 (平成26年4月~平成27年3月見込)

### 役員名

代表取締役: 西條 静悦

### 主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

「牛田生産組合」として:  
 昭和56年度 新農業構造改善事業 (ミニライスセンター)  
 平成13年度 農業生産総合対策事業  
 (麦大豆乾燥調製施設, 普通型コンバイン, 栽培管理用ビニール)

### 過去の表彰

「牛田生産組合」として:  
 平成2年度 みやぎの転作優良集団表彰事業 最優秀賞受賞

## 1 現在の経営内容等

### (1) 経営理念, キャッチフレーズ等

地域農業の担い手として委託希望農家の受け皿となる  
 品質の高い農産物の生産  
 地域雇用の確保

### (2) 栽培技術の特長

- 水稲・麦・大豆の2年3作体系のローテーションを行い、ほ場の有効活用を行っている。
- 水稲は作期を拡大するため、早生品種 (五百川)・中生品種 (ササニシキ・ひとめぼれ) を導入している。また、育苗を省力化するために乾田直播を実施している。既存の大型農業機械を利用した作業体系を確立し、栽培管理を徹底することで直播栽培収量は平均9俵となっている。
- 農業機械利用率向上と年間作業の平準化を図るため、「夏そば」「秋そば」を作付け機械化一貫体系を確立している。
- 品質の高い農産物の生産を目指し、適期の栽培管理を行っている。
- 収量や品質の向上を図るため、作物の生育状況や天候に応じた臨機応変の対応を行っている。

### (3) 販売の特長

- 全量系統出荷をしている。

### (4) 経営組織の特長

- 汎用化された大規模区画を基盤とし、スケールメ

リットを生かし低コストに努めている。

- 当初の経営作目は水稲・麦・大豆・そばであったが、年間通した従業員の確保と地域雇用を実現するため、平成24年から露地ねぎを導入している。

### (5) 労務管理の特長

- 社会保険・厚生年金・雇用保険・労災保険にも加入し、社会労務士からの指導を受けている。
- 労働時間に無駄がないように大豆作業の前にネギの作業を行うなど計画的な作業体制を確立している。

### (6) 経営管理の特長

- 会計期間は4月~3月である。
- 複式簿記記帳は会計担当役員が実施、顧問の税理士より会計・税務指導を受けている。

### (7) その他の特長

- 地域担い手農家の後継者を研修生として受け入れる等、地域内の後継者育成に努めている。
- 平成10年度から「そばまつり」を開催。地域内住民や福祉施設の入居者等を招待し地域の活性化に努めている。
- 県のササニシキ生育調査ほ・直播調査ほを長年にわたって担当しており、データを有効に活用している。

## 2 これまでの経過

### (1) 法人化するまでの特徴的な歩み

- 昭和57年に「牛田生産組合」を設立し、水稲の農

作業共同化や機械、施設の共同利用により経営の改善を図り組合員の農業所得を増進してきた。

- 昭和62年からは集団転作で大麦の受託生産を開始し、その後土地利用型組織としてそばを導入、平成11年度からは転作大豆に取り組み、翌年からは麦・大豆の2年3作体系を確立した。

### (2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過、法人化後の変化

- 受託面積が拡大する中、後継者の確保対策が問題となり、法人化し従業員を雇用していくことにした。
- 平成15年度法人化に向けた県事業の採択を受け、研修会を実施し、宮城県農業会議からの専門指導員の派遣を受ける等準備を進め、平成16年4月1日に設立した。
- 法人にしたことで会計が明確になり経営が安定した。また、サンダーファーム牛田の法人化を契機にその後旧町内に農業生産法人が次々設立された。

## 3 今後に向けて

### (1) 解決すべき課題と現在検討中(取組中)の対処方策

- 雇用の確保。

### (2) 今後に向けての経営戦略

- 乾田直播等低コスト技術の確立。

(調査: 石巻農業改良普及センター)

## 略図



### 有限会社 サンダーファーム牛田

〒986-0305 石巻市桃生町牛田字雷69  
 TEL 0225-76-5066 (FAX兼用)

### 視察受入条件

#### 農閑期 平日のみ

(9:00~12:00・13:00~16:00)

視察料 無

JAいしのまき桃生営農センター

(連絡先: 0225-76-3133)